

中京区基本計画検討ワーキンググループ 第1回会議開催報告

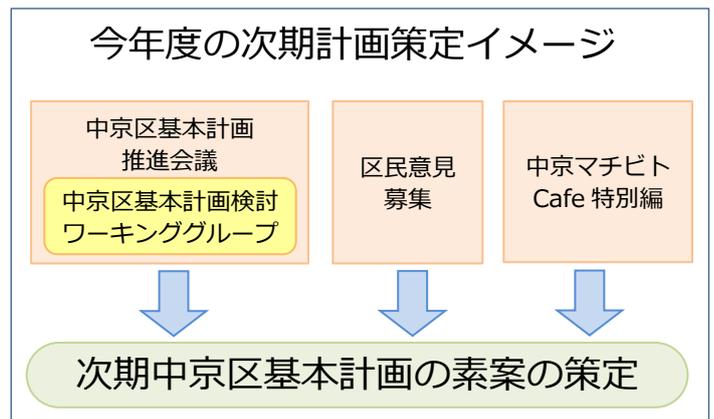
■「中京区基本計画検討ワーキンググループ」とは？

区民意見交流会、アンケート調査など、区民ぐるみで策定した、10年間を計画期間とする第2期中京区基本計画（以下「計画」という。）も、平成23年の策定から8年余りが経過しました。そのため、計画の進行管理を担っている「中京区基本計画推進会議」では、本年3月、次期計画の策定に向け、「中京区基本計画検討ワーキンググループ」（以下「ワーキング」という。）を設置することとしました。

ワーキングは、学識者のほか、区内で活躍されている実務者の方で構成し、去る7月31日に第1回会議を開催し、区内の現状分析や今後のまちづくり戦略等について意見交換を行いました。

今後は、多くの区民の皆様からの御意見や御提案を反映させるため、「中京マチビトCafe 特別編」や「区民意見募集」を行いながら、ワーキングでの議論を深め、今年度内に、中京区基本計画推進会議の意見を踏まえ、次期計画の素案の策定を行います。

なお、来年度には、パブリックコメントを経て次期計画を決定・公表する予定ですので、皆様の御協力をお願いいたします！！



■ワーキンググループのメンバー構成

- 大関 はるか（有限会社ひのでやエコライフ研究所主任研究員）
- 太田 興（防災寺子屋・京都代表）
- 加藤 純子（株式会社リーフ・パブリケーションズ編集制作局局長）
- 木俣 紀子（中京区社会福祉協議会事務局長）
- ◎佐野 淳也（同志社大学大学院総合政策科学研究科准教授）
- 西村 祐一（京の三条まちづくり協議会事務局長）
- 深川 光耀（花園大学社会福祉学部社会福祉学科専任講師）

（◎：座長，○：副座長，五十音順，敬称略）

※ 中京警察署及び中京消防署がオブザーバーとして参画しています。

■当日の主な意見

- ・ 自治会活動に関して、東日本大震災後、子育て世代の関心も高まっているが、仕事などが忙しく、なかなか具体的なアクションにはつながらないとの声もある。
- ・ 町内会などは地域の自治の担い手であり、市民団体やNPOなどはテーマ型の自治の担い手である。互いの活動領域はあるものの、連携を図りながら活動の輪を広げていくことが肝要である。
- ・ 多様な担い手がまちづくりに参画していくことの意味合いを区の計画に込めてみてはどうか。
- ・ この十数年の間に、個人経営の店が少なくなる一方で、外部資本の店が増えるなど、まちの景観も大きく変容している。
- ・ 全国的に見ても、中京区は社会的企業やNPO等の集積が多く、地域資源が豊富だ。
- ・ この10年間で、福祉とまちづくりの垣根が低くなっている。
- ・ 地域の相互扶助やそれを支える組織づくりが大切になっている。
- ・ こどもみらい館などの子育て関係の施設が多く立地していることが、中京区の子育て環境の向上につながっていると思われる。
- ・ 各学区社協による「きつぱあく」も、最近は、乳幼児を対象としたものが増えている。また、居住している学区を跨いでの参加も多い。さらに、ニーズに応じて、内容を工夫しているところもある。
- ・ 日本は諸外国に比べて環境問題への関心が低かったが、昨今の猛暑や風水害の頻発を受けて、市民の反応も変わってきたとの印象を受けている。
- ・ 持続可能な社会づくりは、すべてのまちづくりの根幹である。
- ・ 近年の課題は複雑化しており、ひとつの分野だけではなく、全体に被さるような観点も大切だ。

